

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1. 調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 各教育委員会、学校等が、(1)及び(2)の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

(1)教科に関する調査

○国語A、算数・数学A 主として「基礎的・基本的な知識」に関する問題

○国語B、算数・数学B 主として「基礎的・基本的な知識の活用」に関する問題

(2)学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

4. 実施期日…平成29年4月18日(火)

II 教科に関する調査の結果

1 教科別平均正答率について

小学6年生		国語A (15問)	国語B (9問)	算数A (15問)	算数B (11問)	平 均
全国		74.8	57.5	78.6	45.9	51.4
県	平 均	80.0	64.0	84.0	50.0	55.6
	全国比	+ 5.2	+ 6.5	+ 5.4	+ 4.1	+ 4.2
市	平 均	77.0	60.0	82.0	47.0	53.3
	全国比	+ 2.2	+ 2.5	+ 3.4	+ 1.1	+ 1.9
	全県比	- 3.0	- 4.0	- 2.0	- 3.0	- 2.3

中学3年生		国語A (32問)	国語B (9問)	数学A (36問)	数学B (15問)	平 均
全国		77.4	72.2	64.6	48.1	52.5
県	平 均	82.0	78.0	68.0	52.0	56.0
	全国比	+ 4.6	+ 5.8	+ 3.4	+ 3.9	+ 3.5
市	平 均	80.0	75.0	64.0	48.0	53.4
	全国比	+ 2.6	+ 2.8	- 0.6	- 0.1	+ 0.9
	全県比	- 2.0	- 3.0	- 4.0	- 4.0	- 2.6

○概要

小学校では、例年同様、全国平均正答率を上回っている。

中学校では国語A、国語Bで全国平均正答率を上回っている。数学A、数学Bが下回っているものの、それほど大きな差ではない。

また、小中ともにA問題とB問題の平均正答率の差が、国や県のものと同程度であることから、「知識」と「活用」の差が国や県と同程度であると言える。

●課題となる点

小学校では例年、A問題で県の平均正答率を上回っていたが、今年度は下回っている。一方、中学校では例年、数学Aで全国平均正答率を上回っていたが、今年度は下回っている。「活用」に力を入れながらも、「知識」の定着がおろそかにならないようにしたい。

2 領域別の平均正答率について

小学校 国語A	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	77.8	76.5	69.2
書くこと	65.0	66.9	60.6
読むこと	69.9	74.3	70.2
言語事項	80.3	82.5	78.0
国語B			
話す・聞く	67.9	72.8	64.9
書くこと	56.5	61.4	53.4
読むこと	52.6	56.5	49.2
言語事項			
小学校 算数A	鹿角市	秋田県	全国
数と計算	83.1	86.0	80.6
量と測定	67.5	73.1	68.8
図形	87.0	84.9	81.1
数量関係	85.1	86.6	79.6
算数B			
数と計算	53.0	58.5	52.8
量と測定	41.5	47.0	47.0
図形	15.8	16.4	13.2
数量関係	41.5	44.6	40.0

中学校 国語A	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	79.2	80.4	75.4
書くこと	89.0	90.2	85.7
読むこと	74.0	78.7	73.8
言語事項	80.0	81.9	77.2
国語B			
話す・聞く	76.7	78.0	72.4
書くこと	62.1	67.4	60.8
読むこと	72.5	78.2	72.1
言語事項	35.9	49.6	41.4
中学校 数学A	鹿角市	秋田県	全国
数と式	68.2	73.9	70.4
図形	66.9	68.7	66.0
関数	58.1	62.4	57.4
資料の活用	56.5	63.6	57.6
数学B			
数と式	45.9	49.8	46.3
図形	46.8	50.8	47.1
関数	51.6	55.3	50.8
資料の活用	49.3	51.9	49.1

○概要

ほとんどの領域で全国平均正答率を上回っている。全国平均正答率を若干下回っている領域があるが、それほど大きな差ではない。

●課題

- ・小学校の算数A、算数Bともに「量と測定」の領域で全国平均正答率を若干下回っていることから、この学年の課題であると捉えられる。
- ・中学校の数学A、数学Bともに「数と式」の領域で全国平均正答率を若干下回っていることから、この学年の課題であると捉えられる。

3 設問別の考察

(1) 小学校の国語

○ことわざの意味の理解や、漢字の読みについては、相当数の児童ができています。(A問題)

●目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、必要な事柄を整理して書いたりすることに課題がある。(B問題)

●具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることにも課題がある。

(B問題)

(2) 小学校の算数

○二つの数量の関係や、少数の乗法の計算における乗法の性質の理解については、相当数の児童ができています。(A問題)

●二次元表の理解や、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断理由を数学的に表現することに課題がある。(B問題、A問題の一部)

(3) 中学校の国語

- 漢字の読みや、目的に応じて資料を効果的に活用して話すことについては、相当数の生徒ができています。(A問題)
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題がある。(A問題の一部)
- 伝えたい事実や事柄について、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味する点に、依然として課題がある。(B問題)

(4) 中学校の数学

- ある数量を正の数と負の数で表すことの理解、簡単な一次一元方程式を解くことは、相当数の生徒ができています。(A問題)
- 数学Aの一部の問題において、改善の傾向が見られる。
- 扇方の弧の長さを求めること(A問題)、関数の意味や範囲の意味の理解に課題がある(A問題)。また、各種事象を数学的に説明することにも課題がある(B問題)。

Ⅲ 質問紙調査の結果

1 概要

小・中どちらも、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている項目が多く、児童生徒に望ましい生活習慣や学習習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況を示す結果となって表れている。これらの成果は、家庭・地域・学校が一体となって醸成してきた教育環境の下で成し遂げられたものであると捉えている。

鹿角市教育委員会の施策である「夢創造 school 事業」や「ふるさと生き生きネットワーク事業」や、「主体的・対話的で深い学び」の視点等と関連のある個別のデータについては以下のとおりである。

2 夢創造 school 事業との関わり

「将来の夢や目標を持っていますか」(当てはまる＋どちらかといえば、当てはまる)

○小学校 89.7%(国 85.9%) ○中学校 77.3%(国 70.5%)

3 ふるさと生き生きネットワーク事業との関わり

(1) 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」(同上)

○小学校 70.5%(国 63.9%) ○中学校 64.0%(国 59.2%)

(2) 「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある。」(同上)

○小学校 52.6%(国 42.3%) ○中学校 36.0%(国 33.4%)

(3) 「地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」(同上)

○小学校 56.0%(国 41.1%) ○中学校 24.7%(国 23.6%)

4 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

(1) 「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」(「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」)

○小学校 74.0%(国 64.9%)、中学校 59.1%(国 57.9%)

(2) 「自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」)

○小学校 78.2%(国 68.3%)、中学校 66.4%(国 64.8%)

5 児童生徒の自己肯定感に関する状況

「自分にはよいところがあると思いますか」（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）

○小学校 79.5%（国 77.9%） ●中学校 65.1%（国 70.7%）

この項目については、中学生の数値が全国を下回っており、改善したい課題である。学校教育だけではなく家庭教育や社会教育等の様々な場面での体験活動や経験を通して育まれる面も少なくないことから、学校をはじめとする様々な関係機関や団体等と連携しながら取組を検討していく

6 その他

（1）メディアの適切な利用に関すること

△「平日1日当たり、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間」にバラつきが見られる。特に、3時間以上視聴している児童の割合は30.7%を占めている。中学生は15.8%である。

○「平日1日当たり、テレビゲーム等をしている時間」については小中学校ともに少ない。

・「平日1日当たり、携帯電話等で通話やメール、インターネットをしている時間」については、「持っていない」割合が高い。

●一方で、携帯電話等を持っている児童生徒のうち、2.6%の児童及び3.6%の生徒が4時間以上使用している。また、6.4%の児童及び19.8%の生徒が「使い方について、家の人と約束したこと」を「守れていない」や「ルールがない」と回答している。

（2）地域の行事やボランティア活動に関すること

○「今住んでいる地域の行事に参加している」割合が高い。

小学校 81.2%（国 62.6%）、中学校 57.1%（国 42.1%）

○「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」割合が高い。

小学校 59.4%（国 35.4%）、中学校 75.3%（国 49.7%）

IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできている施策がおおむね良好な成果につながっていることから、以下の事業を引き続き実施し、検証を加えながら一層の充実を図っていく。

- ・児童生徒学力向上対策事業
- ・外国語指導充実事業
- ・ふるさと・キャリア教育推進事業
- ・情報教育環境整備事業
- ・ふるさと生き生きネットワーク事業
- ・かづの夢創造 school 事業

また、メディアの適切な利用に関することや、望ましい生活習慣づくり等は、各校で行われている教育活動と家庭との連携の成果であることから、引き続き、適切な指導や取組が為されるよう、お願いをしていく。